

## 盆踊り唄「べろべろ節」の採譜と分析

### Record in a musical note and analysis of Bon Dance song "Bero Bero Bushi"

茨木金吾

Kingo Ibaraki

#### はじめに

豊岡の盆踊り唄として「べろべろ節」と「松坂節」が使われ、先祖の霊を慰めるために踊られてきた。これらの唄はいつ作られ、いつから盆踊り唄として使われるようになったのか不明とされ、地域の識者の記憶としてもその情報は完全な形で残っておらず曖昧なものである。

なかでも「べろべろ節」は豊岡で生まれ育った人々の間では、その歌詞をごく当たり前のこととしてとらえ、聴いているが、初めて聴く人には奇妙な響きとしてとらえられている。

それは「べろ(べーろ)」という囃子ことば(句)を繰り返すだけで一歌詞(1番)をなすものであり、七七七五調にまとめられてはいるものの、「節(ぶし)」と呼ばれる民謡(表-1地域別、節における囃子ことば一覧表)をその囃子ことばで検索をかけても他にあまり例をみない。本来、この1番のみが元歌詞であり、後に2番以降の歌詞を追加したものであろうことが、その歌詞の内容により容易に推察できる。その歌詞は次の通りである。

1. べろや べろべろや べろべろや べろやべろや べろべろや またべろや(エ)
2. べろの変わり節(ヤ)や(レ) 面白い節で おやじ出て見やれ 孫つれて
3. 月が出た出た(ヤーレ) 但馬の(ナー)富士に 踊る姿が 蓼川に(エ)
4. そろおたよーもそろた 踊り子が揃おた 揃い浴衣で 踊り子が(エ)

(※歌詞は11番までであるが、5番以降の歌詞は音源のみの確認であり、文献を併用しての判読が不可能なため、判読できた4番までを掲載。)

この囃子ことばである“べろべろ”の起こりについては諸説があり、古くからの言い伝えとして①先住民が持っていたバール崇拜などを追放するため、天孫族が考えた歌だとする説であり、“べーろやー べーろ べろやー”(B・L・IH B・L・B・L+IH)というのは、「バールはヤーエなり、バールは『バール・ヤーエ』なり」(「バール」は古代「べーロ」と発音された。)と解釈<sup>2)</sup>したもの、②酒垂神社の故事に端を発するという説であり、昔、農民が旱魃の雨乞いのため、中央にべ(酒壺)とロ(台)を据え、“イツ、べーロー”と唱えながら円陣をつくって踊り回ったのが起源であると解釈<sup>3)</sup>した

もの、③梵語の中の毘盧沙那仏から出た語で、仏をたたえることばであると解釈したものの、④ペロは舌を表す俗語であることから子どもが舌を出してする遊びから出たと解釈したものの、⑤「ペロペロ神」の俗信から出たと解釈する説が挙げられるが、その起こりについては謎の多い唄である。

また、この唄が現在まで慣れ親しまれ、伝えられてきた要因に、秋田県の「ドンパン節」の“ドンドンパンパン ドンパンパン”、神奈川県「ダンチョネ節」の“ダンチョネー”、静岡県「ちゃっきり節」の“チャッキリチャッキリ チャッキリヨ”と通じるものがあり、これらは囃子ことばがそのまま唄の題目となったものであり、子どもに大変人気のあるディズニー映画「シンデレラ」で使用された「ビビディ バビディ ブー (Bibbidi-Bobbidi-Boo)」の中のナンセンスな歌詞“ソラカドゥーラ メチカブーラ ビビディ バビディ ブー (Solakadoola menchicka boola Bibbidi-bobbidi-boo)”に通じるものがあるのではなかろうか。それは、一度聴いたら忘れられないほどキャッチーでユーモラスなものであり、耳から入ったとたん意味のある言葉とは違う経路で脳に届くような効果を持っているのではなかろうか。

本稿はそういった「ペロペロ節」の歌詞面での解釈を背景におき、唄を構築している構成音を採譜し、その採譜したものを分析することによって、「ペロペロ節」が現在まで慣れ親しまれ、伝えられてきた要因を楽曲面から探り、歌詩面と合わせてその効果を考察した。

また、その曲をポップス系のリズムである8ビートとラテン系リズムであるサンバにそのリズムを編曲し、民謡として作られた唄が、いかなる変移をするものであるのかについても併せて調べた。

### 調査方法

○調査楽曲：豊岡盆踊り唄「ペロペロ節」

○調査音源：カセットテープよりPCに取り込んだ音楽ファイル“BEROBERO.WAV”

○調査方法：[採譜]方法と[編曲]方法に分類

[採譜] 調査対象となる豊岡盆踊り唄「ペロペロ節」は、古いものであり、その録音状態は極めて悪く、ダビングにダビングを重ねて音が劣化したものが通常使用されており、かなりノイズの多いものである。そのノイズを減らすことを目的にPCに取り込み、ノイズカットを試みたが、除去効果はあまり得られず、細部にいたるまで採譜するにいたらなかった。

[編曲] 採譜した楽曲を、PCソフト カワイ・スコアメーカーFXを使用し、ポップス系リズムの基本である8ビート、ラテン系リズムであるサンバに、そのソフトの持つ自動伴奏機能を使用して編曲を試み、本来、邦楽曲として構成された「ペロペロ節」が、邦楽以外の系統で作られたリズムに移行できるものであるのかも併せて調べた。

### 調査結果

今回の調査によって採譜した譜例が、譜例-3の採譜結果であり、PCにより8ビートに編曲し、写譜した譜例が譜例-4の「ペロペロ節(リズム:8ビート)」、サンバに編曲した譜例が譜例-5の「ペロペロ節(リズム:サンバ)」である。

表-1 地域別、節における囃子ことば一覧表 <sup>4)5)7)</sup>

地域	民謡名	囃子ことば
北海道	ソーラン節	ヤーレンソーラン… …、ヤサエーエンヤーアンサーノドッコイショアドッコイショドッコイショ
青森	ナオハイ節	ナーオハイハーオハイ、ナーニモサーサ
	ホーハイ節	ホーハイホーハイ
	よされ節	イッチャホーイッチャホ、アスチホイノホイ
	わいは節	ワイハ
	津軽アイヤ節	アイヤアーナー アイヤ
	津軽じょんから節	ソリヤハイサハイヨー
岩手	津軽小原節	サアーアーサーヨイヤアーアー・オハラー
	おいとこ節	オイトコソウダヨ
	からめ節	ハアドッコイドッコイドッコイナ
	くるくる節	クルクルトナークルクルトナーサーヨ
	そんでこ節	コノソンデコヤ
	どとさい節	ドンドンサイサイドドサイドドンドンサイサイサイ
	外山節	コラサーノサンコラサンサ
	七之助節	ハアチョイトチョイト、サノヨーオイエンサーヨイヤラサーノセーエノヤレコノセヤッサーノセーエノヨコレウサセーエノヤーハーレ
	相拳節(相子節)	ハアヨイコラヨイコラヨイトセハアドンドンスメスメシャントセハアマタモキッテハシャントセ
	南部馬方節	ハア アーアーア アーアーエ アーヨー ト ハイハイド オエ ウーエ イート パラット
宮城	えんころ節	アーエンサーエンサーションガイナーアーエンコロエンコロ
	さいたら節	トーヤートット トーヤートット ウリヤトット ウリヤトット サーヨーオ ア コリヤコリヤトエー アレウエーエ エト ソーリヤタイリョダエー
	ザラントショウ節	ザラントショウ
	定義節	ハオッコイサト
秋田	おこさ節	オコサデオコサデホントダネ
	かまやせぬ節	コチャカマヤセヌ
	タント節	タントタント
	ドンパン節	ドンドンパンバンドンパンバンドドババドババドパンパン
	ひでこ節	ナーコノヒデコナー
	三吉節	ジョヤサージョヤサー
	秋田舟方節	ハアヤッショーヤッショーハーヤッショデマカシヨ
	生保内節	キタサノサーコラサノサードッコイショー
山形	酒田節	ハッペコホーエンヤヨーイトコラサのオッシンエー
	酒田船方節	ハヤッショマカシヨ
	庄内八エヤ節	ハーオヤサオヤサ
	新庄節	ハアーアーアー ハ キタサ
福島	かんちよろりん節	ノーオサカンチョロリントコイッサイノーサカンチョロリントッテンチロリンチンチロリンノシャーンシャーンホーイホーイ
	玄如節	サアーサヨイヤショーエ
	常磐炭釜節	ハヤロヤッタナイ
	新相馬節	ナンダーコーラヨーットハアチョーイチョイ
茨城	磯節	ハアーサイシヨネ
	猿島お茶節	アヨレテコヨレテコ
	玄高節	ゲンタカゲンタカゲンタカヨット
	常磐炭坑節	ハアー ヨー ナイ ハ ヤロ ヤッタナイ ドント
	浄観よ節	アレワイセイショガエー
群馬	草津節	アードッコイショチョイナチョイナ
	八木節	オーイサネ
埼玉	たたら節	ナハハー
	とのさ節	サーエー ストンコドッコイ ヤーレー
千葉	さんちよこ節	心願ネーエッサナンデモセーオサンチョエ
	やんざ節	ハーヤンザヤンザ
	鯉子大漁節	ハア コリヤコリヤ
東京	あんこ節	ソラ エンヤラヤノヤー ハ エンヤラヤノ・エー・ハ エンヤラヤノヤー
	しよめ節	ショメ ショメ・イヤー

4 近畿大学豊岡短期大学論集 第5号 (2008)

東京	羽田節	アーマダマダ
	大島節	アハイハイトー
	八丈しょめ節	シヨメシヨメ
神奈川	お茶場節	アイヨットまたおいで
	ダンチョネ節	ダンチョネー
	よささ節	ヤーセノセーエヨササノサオヤツツテンツツテン
安房節	エ ヨイシヨナーエキタリンシヨガナーエ	
新潟	三階節	ハアヤラシヤレヤラシヤレビツカラチャッカラドンガラリン
富山	コクリコ節	コクリコ かなかい マドのサンサ デレレコデン ハレのサンサ いくせ ササラ やしゃ男
	トイチンサ節	トイチントイチントイチンサヤーサレチトチレチトイチンサトイチンサ、トイチンサレー テヤサレーテ
	ヤガエフ節	ヤガエフ
	越中おわら節	キタサノサーアドッコイサノサッサ
妻や節	アイナー エイナー ヤーアイナー イナー	
石川	チョンガリ節	チョンガリ ハアー エイコラナ
	ヤッチョエ節	ア ヤッチョエ ヤッチョエナ イヨ
	山中節	チョイ シシ
福井	三国節	サッサア ホイ やしゃ やのしゃ こちゃ めめじゃこ そうけ
山梨	えぐえぐ節	サアエグエグサアエグエグエイションガイネ
	粘土節	アーゴションゴッション
	馬八節	コラ オーヤレヨー ヨ からまる
長野	エーヨー節	アヨイソレエーヨー
	ざんざ節	イヤサノスイシヨデキハザンザヨーイシヨコリヤイナー
	安曇節	チョコサイコラホイ
	伊那節	アソリヤコイアバヨ
木曾節	ナンジャラホイヨイヨイヨイ	
岐阜	ぜんげのこ節	撞イタトテ何トシヨソゼンゼノコオヤマンマノコ
	とこせ節	トコセキナヨドンドン
	ホッチョセ節	アホッチョセーホッチョセー
群上節	アソンドンセ	
静岡	ちゃっきり節	チャッキリチャッキリチャッキリヨ
	遠州節	アーソーダソーダオー
	下田節	アヨイトサヨイトサエー、オオサヨッタヨッタ
	下田島節	アハイノハイト
	熱海節	オーサヨイトサノセ
農兵節	ノーエ	
愛知	ストコ節	ハアー ネットコ ドッコイ ドッコイシヨ ヨーオホホ アー エー ハア ドッコイ ドッ コイト
三重	尾鷲節	ヤサホラエーヤサホラエーノンノーコサーイ
京都	宮津節	ピン
兵庫	デカンシヨ節	ヨーイヨーイデカンシヨ
	ベろベろ節	ベロヤ ベロベロヤ ベロベロヤ ベロヤベロヤ ベロベロヤ またベロヤエ
奈良	鎌倉節	アーヨイサヨイサ エーニナンヨエ
和歌山	紀州節	コンサイソウカエノンシ
	串本節	アラヨーイシヨヨイシヨヨイシヨヨイシヨヨイシヨオチャレオチャレ
	新宮節	サノヨイヤサノセエッサエッサヤレコノセヒーヤーリハリハリセ
鳥取	貝殻節	カワイヤノーカワイヤノーヤサホーエーヤホーエヤエーエヨイヤサノサッサヤンサノエー エヨイヤサノサッサ
島根	どっさり節	サアノーエー、コレフィドウジャイナア
	安来節	アラエッサッサ
島根	新磯節(隠岐磯節)	ハアテヤテヤテヤテヤイササカリンリン好カレチャドンドンハアーサイシヨネ
岡山	下津井節	トコハイトノエーナノエーソレソレ
広島	三原やっさ節	ヤッサヤッサヤッサヤッサドントモー
山口	ヨイシヨコシヨ節	ヨイシヨコシヨーデヨサノサー
徳島	お姿節	ハアヨイヨイナヤットサノサー
愛媛	伊予さんこ節	ハシタラコシタラ

高知	よさこい節	ヨサコイヨサコイ
福岡	博多ねっちゃん節	ネッチョン
	博多節	アリヤ ドッコイショ
	北九州炭鉱節	サノヨイヨイゴットン
佐賀	のんのこ節	ヤーレ ノンノコサイサイ シテマタサイサイ アラ オチャラカサイサイ
	新地節	コラショ ロレロン アラサイサイ
長崎	ぞりぞり節	ハイケボーイボーイ
	のんのこ節	ノンノコサイサイシテマタサイサイ
	ハイヤ節	ハイヤエー ハイヤ サーマ ヨヤサカサッサ
	高島節	アラショカショカネ
	平戸節	エンヤラヤノヤーエンヤラヤノエンヤラヤエシヤラホイノサ
熊本	おざや節	コラショイコラショイヨイガナヨイガナヨンニョハイイルナイレタダブツダセ
	お蔭節	ヤッサモッサモチアゲ
	キンキラキン節	ソラ キンキラキン
	ボンボコニャ節	オヤボンボコニャ オオサボンボコボンボコニャ
	天尊節	ハアーコランコラン
大分	コツコツ節	サンヤリアーコツコツ
	サンサ節	ヤッコラチョイガヤッセサーンサヨー
	下の江節	サイサノヨイヨイ
宮崎	しょんが節	シヨンガオ
	安久節	ヤッサヤッサ
	穂擡節	ヨー オーホイ
鹿児島	浦富節	ソラヌヨーイヨーイウマドシラレユール
	鹿児島ハンヤ節	ハンヤエーヨイヨイヨイヤサット
	鹿児島小原良節	ハヨイサーヨイヤサー
	鹿児島浜節	トコヨーイヤサッサ ヤサホイノ シテマタヨイヤサ コラショ
沖縄	エイサー節	エイサーエイサー
	してな節	ヨイヤナアシテナシテナユシテナヨイヤア
	ましゆんく節	ウネシユクテントントン
	安里屋節	サアユイユイ マタ ハーリヌ ツィンダラ カヌシャマヨー ユンタ
	谷茶前節	エナンチャ マシマシ ディ アングワ ソイ ソイナンチャ マシマシ ディ アングワ ヤクスク
	鳩間節	パイヤーヨーティバ

江戸追分節

か も め の なくね に ふと め

譜例ー1 メリスマ様式の典型である追分様式の一例<sup>6)</sup>

八木節

譜例-2 シラビック様式の典型である八木節様式の一例<sup>6)</sup>

採譜した楽曲(譜例-3)を分析する際、民謡としてのリズムの分析に関しては民謡調査研究の第一人者である小泉文夫の民謡のリズムの分類<sup>6)</sup>にそってとらえることとした。

小泉は民謡のリズムについて無拍でメリスマティック(歌詞の一字に多音があてられる)な「追分様式」(譜例-1)と、「拍」をもつシラビック(歌詞の一字に一音があたる)な「八木節様式」(譜例-2)に分類しており、現在の日本音楽全体のリズムの分類にはこれが適用されている。

この二種の様式に採譜した楽曲を合わせてみると、あきらかにシラビック様式である「八木節様式」によって、その楽曲の民謡のリズムは構成されていることがわかる。

次に構成されている音階をみると F 音と B 音がその構成音として使われていないことから、古典邦楽の音階である“呂音階”であり、近代邦楽の音階である“ヨナ抜き長音階”で作られていることがわかる。

表-2 古典邦楽の音階と近代邦楽の音階<sup>6)</sup>

古典邦楽の音階		
音階名	音階	備考
呂音階	C, D, E, G, A, C	雅楽・長音階に相当
律音階	上行形 D, E, G, A, C, D	雅楽・短音階に相当
	下行形 D, B, A, G, E, D	
陽音階	D, F, G, A, C, D	俗楽・長音階に相当
陰音階	上行形 E, F, A, B, D, E	俗楽・短音階に相当
	下行形 E, C, B, A, F, E	
琉球音階	C, E, F, G, B, C	俗楽・長音階に相当
近代邦楽の音階		
音階名	音階	備考
ヨナ抜き長音階	C, D, E, G, A, C	呂音階と同じ
ヨナ抜き短音階	A, B, C, E, F, A	陰音階の主音をAに変更
ニロ抜き短音階	D, F, G, A, C, D	陽音階と同じ
ニロ抜き長音階	C, E, F, G, B, C	琉球音階と同じ

さらに、ムーブメント(動くこと)に関係するリズムの構成にいたっては、身体表現における基本四動作の中のスキップを補助するためのリズムである長音符と短音符を組み合わせて1拍をなすリズム形(♩)を、その主リズムとして多用していることから、スキップの持つ特性である躍動感が生かされたものとなっていることがわかる。このことから身体表現を視野に入れたリズム構成がなされていることが理解できる。

最後に、楽器構成についてであるが、三味線の音を主伴奏とし、締太鼓、和太鼓、鉦が副伴奏として加わり、曲の構成を展開しているが、主旋律である唄と笛が躍動感あるリズム(♩)を展開しているのに対して、主伴奏である三味線が、そのリズムを長音符とそれを二分割した短音符の組み合わせのリズム形(♩)で演奏していることから、その躍動感は少なからず押しえられたものになっている。ま

た、打楽器である締太鼓、和太鼓、鉦はポップス系リズムである8ビートの基本リズムに似たリズムを形成しており、拍節をつかみやすいリズムになっており、動き易さに繋がる要因であることがうかがえる。

これら動き易さの要因から、盆踊り唄である「べろべろ節」は、踊ることを目的に作られたものであり、その民謡のリズムは拍をとらえやすい八木節のシラビク様式であり、唄全体のリズム構成は拍節をつかみやすい副伴奏の打楽器パートと躍動感ある主旋律の唄と笛、それを押さえる主伴奏の三味線の弦楽器パートが上手く絡み合い、独特の民謡としてのリズムを作り出していること、旋律は古典邦楽の音階である“呂音階”であり、近代邦楽の音階である“ヨナ抜き長音階”でつくられており、邦楽の音階の特徴をはっきりと出していることがわかる。

この採譜した楽曲の響きをもとに和音付けしたものが譜例-3内のコードネーム表記である。この表記はこの楽曲が邦楽の理論で構成されたものであるため、和声法を用いることができず、和音進行を無視した形で展開されるが、C、Am7、Dm、Gの四種類の和音で表記できる。このうちAm7はCの代理和音としてみなすことができるため、大きくはC、Dm、Gの三種類で展開されているとみることができ、これらのことから古典邦楽の“呂音階”の唄が、近代に入って和太鼓、締太鼓、鉦といった打楽器や三味線といった弦楽器を加えることによって、近代邦楽の音階である“ヨナ抜き長音階”の唄として作り直されたものではなかろうかとその構成和音をとらえることによって推察できる。

この推察は最初に述べた歌詞についての解釈の事項と大きく関係することであり、1番と2番以降の歌詞に何ら内容の関連性がみられないことから、このような仮説を立てることができる。この仮説を定説として裏付けるための文献を探し出すことは難しく、探し得ない限り仮説止まりであるため、今後の研究の課題として、継続していく必要がある。

本稿ではさらに、採譜の段階で打楽器の構成リズムがポップス系の基本リズムである8ビートに似たリズムを形成していることから、主旋律パートと主伴奏パートを残し、PCによる8ビートの編曲を試み、ポップス系リズムに編曲(譜例-4)しても十分に「べろべろ節」本来の動きに対応し、移行できるものであるのか否か、また、その8ビート編曲と比較するために盆踊りと同様に踊ることに関して代表的なラテン系のリズムであるサンバに編曲(譜例-5)し、「べろべろ節」の動きとその編曲されたリズムの適応性を調べたが、8ビートに関しては採譜結果にも現れているように、8ビートに似たリズムを構築していることから、新たに編曲し直しても本来の動きを損なうことなくリズムが動いており、何ら違和感はないが、サンバに関しては主旋律、主伴奏がなすリズムとラテン系のリズムとの一致はみられず、別の動きがイメージされる結果となった。

したがって、この盆踊り唄である「べろべろ節」の踊りは、ポップス系のリズムである8ビートで踊れるものであり、逆の発想をするならば、「べろべろ節」の動きは、他の8ビートのリズムで作られた楽曲にも反応することが可能であり、踊ることも可能であるとみることができる。

## へろへろ節

作詞・作曲者：不詳

♩ = 90 Am7 C Am7

唄・笛

三味線

太鼓(上段:締太鼓 下段:和太鼓)

鐘

Am7 G Am7 G Am7

G Am7 C G Am7

G Am7 C G Am7

べろ べろ べろ べろ やしれ た べろ べろ べろ べろ やしれ た ままた たこ べつが り

か で よ わ た り ぶ で も し た そ ろ や や ろ や し れ た れ ど お た お も し ま り ろ の こ い な が ふ み そ し し る

や で べ ろ や や べ ろ や べ ろ べ ろ や べ ろ や べ ろ や べ ろ や べ ろ や

べ お ろ や や べ ろ や べ ろ や べ ろ や べ ろ や べ ろ や べ ろ や べ ろ や

た た お せ ど ろ い す ゆ が み た た が で た べ つが り

た こ べ つが り

譜例-3 採譜結果



### べろべろ節

作曲者：不詳

♩=90

唄・笛

三味線

キーボード

ギター

ベースギター

ドラム

The musical score is arranged in a multi-staff format. The top staff is for the vocal line (唄・笛) in 4/4 time, marked with a tempo of ♩=90. The second staff is for the shamisen (三味線). The third and fourth staves are for the keyboard (キーボード) and guitar (ギター), respectively, both in grand staff notation. The fifth staff is for the bass guitar (ベースギター) in bass clef. The sixth staff is for the drums (ドラム) in a standard drum notation. The score consists of two systems of music. The first system covers the first four measures, and the second system covers the next four measures. The music features a mix of melodic lines and rhythmic accompaniment, characteristic of a traditional Japanese folk song.

The musical score is arranged in 12 systems. Each system contains multiple staves. The first system features two vocal staves and a grand staff. The second system consists of two grand staves. The third system includes a bass staff and a drum staff. The fourth system has two vocal staves and a grand staff. The fifth system features a bass staff and a drum staff. The sixth system has two vocal staves and a grand staff. The seventh system consists of two grand staves. The eighth system includes a bass staff and a drum staff. The ninth system has two vocal staves and a grand staff. The tenth system consists of two grand staves. The eleventh system features a bass staff and a drum staff. The twelfth system has two vocal staves and a grand staff. The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings.

譜例-4 ペロペロ節(リズム:8ビート)

べろべろ節

作曲者：不詳

♩=90

唄・笛

三味線

アコースティック  
ベースギター

ドラム

The musical score is written for four instruments: vocal/flute, shamisen, acoustic bass guitar, and drums. It is in 4/4 time with a tempo of 90. The score is divided into four systems. The first system shows the vocal line and the instrumental accompaniment. The second system continues the instrumental parts. The third system shows a change in the instrumental texture. The fourth system concludes the piece with a 2/4 time signature change.

譜例-5 べろべろ節(リズム:サンバ)

### おわりに

本稿は、「べろべろ節」の歌詞面での解釈を背景におきつつ、唄を構築している構成音を採譜し、その採譜したものを楽曲分析することによって、「べろべろ節」が現在まで慣れ親しまれ、伝えられてきた要因を楽曲面から探り、歌詞面と合わせたその効果を考察したものである。

その結果、楽曲を分析することによって、得られたものは次の通りである。

①民謡としてのリズムは、八木節に代表されるシラビック様式(歌詞の一字に一音があたるもの)で構成されている。

②ムーブメント(動くこと)に関するリズムは、身体表現における基本四動作の中のスキップを補助するためのリズムである長音符と短音符を組み合わせて1拍をなすリズム(♩)を、その主リズムとして多用しており、スキップの持つリズム特性である躍動感が生かされたものとなっている。

③音階は、F音とB音がその構成音として使われていないことから、古典邦楽の音階である“呂音階”であり、近代邦楽の音階である“ヨナ抜き長音階”で作られている。

④楽器の構成は、三味線の音を主伴奏とし、締太鼓、和太鼓、鉦が副伴奏として加わり、曲の構成を展開しているが、主旋律である唄と笛が躍動感あるリズム(♩)を展開しているのに対して、主伴奏である三味線がそのリズムを長音符とそれを二分した短音符の組み合わせであるリズム(♩)によって演奏していることから、その躍動感はすくなくならず押さえられたものになっている。また、打楽器である締太鼓、和太鼓、鉦は、ポップス系リズムである8ビートの基本リズムに似たリズムを形成しており、拍節がつかみやすいリズムになっており、動き易さにつながる要因である。

⑤古典邦楽の“呂音階”の唄が、近代に入って和太鼓、締太鼓、鉦といった打楽器や三味線といった弦楽器を加えることによって、近代邦楽の音階である“ヨナ抜き長音階”の唄として作り直されたものではなからうかという仮説が、それぞれの構成音を和音に構築することによってたてられた。このことは歌詞について述べた事項に大きく関係することであり、1番と2番以降の歌詞に何ら内容の関連性がみられないことからこのような仮説を立てることも可能ではなからうか。

このような楽曲面での楽曲構成効果と歌詞面での効果(一度聴いたら忘れられないほどキャッチーでユーモラスなものであり、耳から入ったとたん意味のある言葉とは違う経路で脳に届くような効果)が相まったことによって、現在まで慣れ親しまれ、伝えられてきたのではなからうかとその要因を分析することができた。

また、その採譜した曲をポップス系のリズムである8ビートとラテン系のリズムであるサンバに、リズムを編曲することによって、民謡として作られた唄が、いかなる変移をするものであるのかについても調べたが、8ビートに関しては採譜結果にも現れているように、8ビートに似たリズムを構築していることから、新たに編曲し直しても本来の動きを損なうことなくリズムが動いており、何ら違和感がないこと、サンバに関しては主旋律、主伴奏がなすリズムとラテン系のリズムとの一致はみられず、別の動きがイメージされる結果となり、ポップス系の基本リズムである8ビートへの移行はス

ムーズにできるものの、ラテン系のリズムであるサンバへのリズムの移行は難しいことがわかった。

したがって、この盆踊り唄である「べろべろ節」の踊りは、ポップス系のリズムである8ビートで踊れるものであり、逆の発想をするならば、「べろべろ節」の動きは、他の8ビートのリズムで作られた楽曲にも反応することが可能であり、踊ることも可能であろうことが推察できた。

次稿では、もう一つの盆踊り唄である「松坂節」を採譜し、分析することによって、豊岡の盆踊り唄の特性の一端をつかんでいくこととする。

#### 引用文献

- 1) 神戸新聞：べろべろ節、27, 神戸新聞 2008 年 9 月 24 日版, 神戸新聞社(兵庫), 2008
- 2) 神戸大学附属図書館：日本民族発祥の地は古代スメリア国? 八戸民謡の研究から川守田博士の推定、大阪時事新報 1935 年 5 月 1 日版, 神戸大学附属図書館(兵庫), 2008
- 3) コウノトリ翔る地域まるごと博物館構想・計画検討委員会：コウノトリ翔る地域まるごと博物館構想・計画、1-73, 豊岡市企画部コウノトリ共生推進課(兵庫), 2003
- 4) 高柳蒔子：拾い読みする囃子言葉、「かばん」特別号 特集オノマトペ, 三月書房(東京), 1997
- 5) 服部龍太郎：日本民謡全集、1-320, 角川文庫(東京), 1965
- 6) 田中健次：一目でわかる日本音楽入門、1-175, 音楽之友社(東京), 2003
- 7) 町田嘉章・浅野建二：日本民謡集、1-220, 岩波文庫(東京), 1960

#### 参考文献

- 1) 黒沢隆朝：楽典、11-227, 音楽之友社(東京), 1966
- 2) 東洋音楽学会：東洋音楽研究第 20 号、1-192, 音楽之友社(東京), 1969
- 3) 早稲田みな子：南カリフォルニアの盆踊り, 62-78, 第 52 卷 1 号, 音楽学、日本音楽学会, 2006
- 4) F.T.Piggott, 服部龍太郎訳：日本の音楽と楽器、1-253, 音楽之友社(東京), 1968
- 5) 吉川英史：日本音楽の歴史、1-469, 創元社(大阪), 1971